

館報  
いりやま

平成28年7月1日現在

世帯数	886戸
男	1,007人
女	1,071人
総人口	2,078人

● 活動報告 ●



寺所ロータリーの藤棚建設

入山辺地区の将来への不安から発足した「入山辺地区の将来ビジョンを考える会」(愛称・こんな山辺にするじゃん会)の活動が6年目を迎えました。松本市でも平成26年度から各地区に「地域づくりセンター」を設置し、地域づくりに力を入れています。松本市が掲げる地域づくりとは「安心して、いきいきと暮らせる住みよい地域社会を構築するため、住民が主体となっ

て地域課題を解決していく活動や取組み」だそうです。6年前から地域づくりのために住民が主体となつて活動している入山辺は、松本市の中でも一置かれる地域になつていくようです。最近のこんな山辺にするじゃん会の活動状況をご紹介します。

① 観光と魅力発信グループ  
各集落案内看板の設置、藤棚の建設、山辺ワイナリーにある入山辺案内板横の掲示板の更新、ブログやホームページの更新

② 食農振興グループ  
休耕田を活用したもち米栽培(田んぼのわプロジェクト)、蕎麦・菜の花の栽培(みんなのそばで楽し味隊)、山辺小学校田んぼでの米の栽培支援、山辺ぶどうを使った干しぶどうの商品化

③ 住み易い地域づくりグループ  
福祉ひろばへの送迎ボランティア、県道和田線や幹線農道「山辺パノラマライン」沿いへの植樹



山辺小学校の米の栽培支援

6年目を迎え、さまざまな活動を実施し継続していくところまで至りました。しかし、まだまだ地域の課題は山積みです。地域課題と決するといふものではなく、長い目で将来を見据えていかなければなりません。今、住んでいる入山辺の魅力に住民が改めて感じ、今後も住み続けていきたい場所であり続けることが入山辺を盛り上げていくことにつながるのではないのでしょうか。

こんな山辺にするじゃん会では「住んでみたい、訪れてみたい入山辺」を目指し、今後も活動を続けていきます。

自分の住む地域の将来と一緒に考えてみませんか。新規会員は随時募集中です。みなさまのご支援ご協力をお願いいたします。

歴史文化基本構想  
関連文化財群まとめ

平成25年度から各町会の文化資産(伝統行事、石造物、神社仏閣、風景など)の調査を行ってきました。調査件数は四六〇項目に及び、特に石造物は多く、道祖神が三五基、馬頭観音は二百基を超える数となっております。(調査した文化資産は、平成26年12月発行の入山辺文化誌に収録)

平成27年度はこの文化誌を活用した、地域の文化資産を知らう講座など十三回開催し、二百名の方に参加していただきました。また、複数の文化資産を関連文化財群として捉えることで、一体的に保存・活用が効果的に行えることから、関連文化財群の設定を行いました。

入山辺地区 関連文化財群

- ① 山辺郷のあけぼの
- ② 山家氏、小笠原氏と山城
- ③ 江戸時代の民間信仰 (石造物群)
- ④ 江戸時代の民間信仰 (伝承行事)
- ⑤ 村の祭り
- ⑥ 山辺の教育
- ⑦ 山辺谷の生業
- ⑧ 明治憲法下の遺産



設定に当たっては、①ストーリー性があること、②歴史的に共通項があること、③地域の歴史や文化、伝統行事をよく表しているもの、④地域住民が誇りに思うことなどを考慮して、八つのテーマにまとめました。

今年度、関連文化財群に関する講座を予定しています。また、松本市では、35地区から提出された関連文化財群を基に、歴史文化基本構想の策定を、平成29年度を目途に作業を進めています。

(歴史文化基本構想の取り組みについては、館報393号参照)

ウォークラリー大会

第13回山辺の郷健康ウォークラリー大会が、5月15日(日)に開催されました。15チーム52名が参加し、藤の花が見ごろの徳運寺を折り返す約6kmのコースを楽しく歩きました。コース上のチェックポイントの問題を解くことで、入山辺地区の歴史文化を理解することができました。

### 第18分団だより

日増しに暑さが増す季節となってきましたが、今年を振り返りますと、1月には、雨水による扉温泉宿泊客及び従業員への帰宅支援活動と、一ノ海での住宅火災と連日出動となり、多難なスタートとなりました。その後の入山辺地区は、いつもの平穏さを取り戻したかと思えます。

一ノ海の住宅火災では、自然水利からポンプアップにより、山辺署ポンプ車への補水を行い円滑な消火活動が出来ました。また、初期から駆け付けた地元消防団OBの支援の御蔭で、延焼を防げたのは大きな成果でした。改めて感謝申し上げます。火災出動は無いことが一番ですが、昨今、火事場での出動経験が無い団員も多く、今の十八分団は現場力が課題と思うところで

この現場力を養う為に、6月19日(日)に山辺小学校に



て分団訓練を実施しました。本年度は、十九分団と合同で、大規模山林火災を想定したヘリへの中継送水訓練、各種器具取り扱い訓練を行いました。合わせて本年度支給された、署轄系無線での指示伝達訓練も兼ねて行い、

新人、幹部共に多くの技能習得が出来たとおもいます。今後も繰り返しこのような訓練を行う事により、実践的な現場力向上を図っていきたいと思います。改めて、各地区の町会長及び、防災部長様におかれましては、地区内訓練の実施計画がありましたら、消防団の各部署長にご連絡をお願いいたします。出張所に出動要請の申請書がありますので、起票につきましても重ねてお願い申し上げます。



防災訓練での安全管理の徹底も含め、共に訓練を行い協力させて頂きます。また、第十八分団では、男女問わず新入団員を募集しておりますので、宜しくお願いいたします。

最後に、岩波酒造に伺い、ご主人に工場内を案内していただきました。機械化された

### 視察研修

町内公民館長会の研修が6月25日(土)に開催され、公民館長を中心に10名余で3ヶ所を視察しました。

最初に訪れたのは、牛伏川の「フランス式階段工」で国の重要文化財に指定されています。明治18年にはじまり、大正7年に完成した「牛伏川砂防」は階段工だけでなく、1600mの尾根に及ぶ堰堤や水路、山止めの空石積みは、東京ドーム21個分にも及ぶ大なる砂防をしています。この川の流域は、牛伏川このの広場(公園)となっております。散策にもお勧めです。



次にこれも国の重要文化財に指定されている「馬場家住宅」を訪問し、「裂織」の見学と体験をしました。皆、見よう見まねでなんとか折り目をつけました。

最後に、岩波酒造に伺い、ご主人に工場内を案内していただきました。機械化された

### 夏の球技大会

システムを見学し、米から醸造までの過程を丁寧な説明いただき、大変参考になりました。町内公民館長会長 三ツ山 肇勇

子ども会育成会による夏の球技大会が、6月26日(日)に開催されました。低学年はドッチビー、高学年はドッチボールを実施しました。低学年の子達は、休憩中に「赤頑張り、白頑張り」と全力で応援している姿が印象的でした。最後は子どもと大人で対戦しました。勝つても負けても、一緒に対戦することで楽しく交流を深めることができました。



### 勝ちたかったドッチボール



最初は、球技がにがてです。理由は、ボールを投げるのとやけるなどをあまりしないからです。

球技大会では、ぼくはボールなどをあまり投げませんでした。でもパスはしました。最初に戦ったときに、ぼくは、はじめは勝っていたけれど、最後は1対1になって、結果は1対0になりました。ぼくは負けたチームです。2回目に戦ったときは2人残ったけれど、相手は、6人残っていたので負けました。ぼくは、全部で4回試合をやりました。残りの2回は大人と戦うのと、大人チームに入って戦うのをやりました。

大人と戦ったときは、大人がおとなげなかったのが負けました。大人チームに入ったときは、ゆだんしていたらあたたかっけど、1人あてることができました。今号から小学生の皆さんの記事を掲載しますので、次号もお楽しみに!

### 町会对抗球技大会の結果

- ソフトボール
- 優勝 橋 倉
  - 準優勝 三反田・奈良尾
  - 第三位 大和合・牛立・三城
- ソフトバレーボール
- 優勝 南方
  - 準優勝 三反田・奈良尾
  - 第三位 西桐原